

3年間の取り組みと今後の改善方針

教育学研究科・白松 賢

1. 3年間の授業内容

この3年間、教職コアカリキュラムへの対応を考え、授業内容を概ね一定化して取り組みを行った。その内容が次のとおりである。

- (1)イントロダクション-教師の職業世界-
- (2)教職への信頼のゆらぎ(1)-不祥事から考える服務上・身分上の義務-
- (3)教職への信頼のゆらぎ(2)-保護者・地域社会からの信頼の変化-
- (4)教職の世界を理解する-教師の仕事と職務内容-
- (5)教職を取り巻く社会の変化-チーム学校の必要性-
- (6)教師に求められる資質能力とは
- (7)公教育制度の成立と教職-教職の社会的必要性-中間確認テスト
- (8)教師研究の方法(1)-ライフサイクル

- 論-
- (9)教師研究の方法(2)-ライフヒストリー論-
 - (10)現場の教員に学ぶ
 - (11)<教師の成長>と研修・身分保障
 - (12)<学び続ける教師>:生涯学習の必要性
 - (13)自己の適性を考える(1) -自己実現目標としての教師像-
 - (14)自己の適性を考える(2) -自己教育課題の明確化- 学習課題レポート
 - (15)まとめ -教職をめざした学習ロードマップを創ろう-

2. DP 対応調査の結果から

本授業では、DP の1の前半と DP 4の関心、意欲、態度、教師としての使命感や責任感を主に対象としている。DP 1, DP 4のいずれの項目も、3年間にわたって、60%を超える受講生が

表1 教職基礎論DP対応調査

		とても そう思う	ある程度 そう思う	あまりそう 思わない	無関係である	計
DP1知識・理解:教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。	H28	64.2%	31.8%	4.1%	0.0%	100.0(148)
	H29	54.4%	38.8%	6.9%	0.0%	100.0(160)
	H30	61.4%	35.4%	2.5%	0.6%	100.0(158)
DP2技能:教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている。	H28	43.9%	47.3%	8.8%	0.0%	100.0(148)
	H29	45.0%	41.9%	12.5%	0.6%	100.0(160)
	H30	39.2%	43.0%	10.1%	1.3%	100.0(158)
DP3思考・判断・表現:教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について、専門的な知見をもとに、その対応方を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができる。	H28	47.3%	45.3%	7.4%	0.0%	100.0(148)
	H29	43.1%	48.1%	8.8%	0.0%	100.0(160)
	H30	41.8%	51.9%	6.3%	0.0%	100.0(158)
DP4興味・関心・意欲・態度:教師としての使命感や責任感を持ち、自己の課題を明確にして理論と実践とを結びつけた主体的な学習ができ、自主的に社会に貢献しようとする。	H28	67.6%	29.7%	2.7%	0.0%	100.0(148)
	H29	65.6%	29.7%	2.7%	0.0%	100.0(160)
	H30	67.1%	30.4%	1.9%	0.6%	100.0(158)

「とてもそう思う」と回答している。また「ある程度、そう思う」と回答した学生を含めると、95%程度の学生が、これらの項目には、肯定的な回答をしていることになる。

これらの結果から、3年間にわたり、授業のほぼねらい通りの効果を達成したことが明らかとなった。また、3年間にわたり、シラバスと授業内容を統一化して実施してきた成果として、ほとんど同じ割合の回答となっていることが明確であった。また授業の主なねらいとしていないDP2の技能、DP3の思考・判断・表現についても、一定の高い割合で肯定的な回答が行われていることから、主体的対話的で深い学びを意識した授業方法との対応がうまくいっていることを示唆する結果といえるだろう。

また、「無関係である」と回答した学生が全ての項目について同様の回答をしているのではなく、重み付けの結果ということも素データからは明らかになったため、授業がDPのどこに対応しているかと考えるかは、学生が多様な授業内容のどこに強く関心を持ったか、という点に影響されているとも考えられる。

3. 次年度への改善点

本授業では、ねらい通りの効果を得ていることがわかるが、3年間の取り組みの中で授業のパターン化も生じている。授業者自身が飽きてきており、惰性で授業を行わないように工夫する必要がある。

そこで次年度は、3つの改善を行い

たいと考えている。

第一に、教育問題については、トピックとして「いじめ」から「児童虐待」「体罰」「SNSトラブル」に内容をシフトし、教員採用試験の内容とともに、昨今のトレンドを反映するようにして、学生の興味・関心を高め、思考・判断・表現に関わる専門的思考のあり方を教授したい。特に、事前に学生にレポートとして課して、

第二に、受講生数が170名程度であり大規模ではあるものの、グループでの対話的な学びを促進していきたい。TAと相談しながら、学生が話しやすい題材をもとに、グループで様々な協議を行い、授業中に発表し、それを授業内容に反映していく方策を用いたい。

第三は、アクティビティの改良である。学級活動や生徒指導で用いられるSGEやSSTの他に、アンガーマネジメントやクラス会議等の手法を紹介しながら、授業内容と関連付け、模擬体験的に学習できる工夫をさらに向上させたい。

なお、DP対応調査の項目は、ダブルバーレルの問題を抱えているため、それぞれの回答がどこ観点で生じているか不明瞭な点がある。

次年度は、「教職について専門的に学ぶ意義を深く理解できた」「教師としての成長を語ることの困難を理解することができた」「教師の職業的世界について、児童生徒とは異なる立場で考えるようになった」といった授業内容に深く関わる項目を複数、調査し、授業のあり方について検討を行いたいと考えている。